

問1 日本の都道府県別の農産物収穫量において、宮崎県が1位を占めているきゅうりや、和歌山県・愛媛県が上位を占めるみかんのように、特定の地域に産地が集中する理由として最も適切な説明はどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)

- それぞれの作物の生育に適した気温や降水量などの自然条件に合わせて、適地適作が行われているため。
- すべての都道府県において、主食である米の生産から野菜や果実の生産へ一斉に転換したため。
- 消費地である大都市からの距離に関わらず、すべての農産物を全国一律の価格で輸送できる仕組みがあるため。
- 寒冷な地域では農作物の栽培が不可能であるため、すべての産地が西日本や太平洋側に集中しているため。

問2 日本のエネルギー供給において重要な役割を果たすある資源について、港湾付近の施設では、広大な敷地に黒い山のように高く積み上げられ、ベルトコンベア等で運ばれる様子が見られます。この資源の名称と、日本における現状についての説明として正しいものはどれですか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

- 資源は石炭であり、かつては国内で盛んに採掘されていたが、現在はそのほとんどを海外からの輸入に依存している。
- 資源は鉄鉱石であり、オーストラリアやブラジルから輸入され、主にプラスチック製品の原料として利用されている。
- 資源は銅鉱石であり、日本の自給率が非常に高く、国内の電子部品工場へ安定して供給されている。
- 資源はボーキサイトであり、アルミニウムの原料として輸入され、日本の電力供給の約半分をまかなっている。

問3 大都市圏で発生した、都心部の人口が減少し郊外の人口が増加する「ドーナツ化現象」の背景と、それに伴って生じた社会的な変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井公立入試 類似)

- 都心の地価高騰により人々が郊外へ流出したため、都心部にある小学校などの公共施設では、児童数が極端に減少する問題が生じた。
- 都市の拡大を抑えるために政府が都心部への居住を禁止したため、郊外のニュータウンでは農業が主な産業となった。
- 農村部での仕事不足により若者が都市部へ集中したため、都心部の中心業務地区では住宅不足が深刻化し、スラムが形成された。
- 都市全体の人口が減り続けることで、都心部から郊外にいたるまで一様に住宅が取り壊され、空き地が増加する現象が起きた。

問4 中国地方の略地図において、山陰地方の海岸沿い、現在の島根県にあたる位置に記される歴史的な鉱山があります。戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出し、2007年に世界文化遺産に登録されたこの場所の名称を選びなさい。 (2021年 奈良公立入試 類似)

- 石見銀山
- 佐渡金山
- 別子銅山
- 足尾銅山

問5 ある輸出拠点における品目別輸出額の割合を確認すると、「半導体等電子部品」が全体の過半数を占めていました。この拠点で主に利用されている輸送手段の特徴として、最も適切なものを一つ選びなさい。 (2018年 北海道公立入試 類似)

- 輸送コストは高いが、小型で軽量な高付加価値製品の運送に適している。
- 輸送コストが安く、重量があり体積の大きい製品を大量に運ぶのに適している。
- 戸口から戸口への配送が可能で、機動性に優れた近距離輸送に適している。
- パイプを利用して、石油や天然ガスなどの液体や気体を連続的に運ぶのに適している。

問6 1980年代、日本の自動車や電化製品が海外市場で高いシェアを占めたことにより、アメリカ合衆国などとの間で発生した、経済的な利害の不一致による対立を何と呼びますか。 (2023年 香川公立入試 類似)

- 貿易摩擦
- 産業の空洞化
- 垂直分業
- 加工貿易

問7 日本の近畿地方、大阪湾沿岸の大阪府や兵庫県を中心とした地域に位置し、古くから商業と結びついて発展してきた日本を代表する工業地帯の名称を選んでください。 (2023年 秋田県公立入試 類似)

- 阪神工業地帯
- 中京工業地帯
- 京浜工業地帯
- 瀬戸内工業地域

問8 1970年代に発生した石油危機をきっかけに、日本を含む多くの国で研究が進められました。太陽光や風力、あるいは動植物などの生物資源を利用したエネルギーのように、自然界に常に存在し、繰り返し利用できるエネルギーの総称を何と言いますか。 (2026年 京都府公立入試 類似)

- 再生可能エネルギー
- 化石燃料
- 原子力エネルギー
- 火力発電用エネルギー

答え合わせ・解説

問1	答え 1 それぞれの作物の生育に適した気温や降水量などの自然条件に合わせて、適地適作が行われているため。	日本の農業は、その土地の気候や地形などの自然条件を活かした「適地適作」が行われています。例えば、冷涼な気候を好むりんごは青森県や長野県、温暖な気候を好むみかんは和歌山県や愛媛県、そして広大な平野と水に恵まれた新潟県や北海道では米といったように、地域の特性に応じた産地形成がなされています。宮崎県できゅうりの収穫量が多いのは、冬の温暖な気候を活かした促成栽培が行われているためです。
問2	答え 1 資源は石炭であり、かつては国内で盛んに採掘されていたが、現在はそのほとんどを海外からの輸入に依存している。	文章で説明されている「黒い山のような資源」は石炭です。石炭はかつて「黒いダイヤ」と呼ばれ、日本国内の炭鉱でも多く生産されていましたが、採掘コストの上昇やエネルギー革命（石炭から石油への転換）により、現在は国内の主要な炭鉱は閉山しています。しかし、火力発電の燃料や鉄鋼業の原料としての需要は依然として高く、現在は海外からの輸入と国内での備蓄によって供給をまかっています。
問3	答え 1 地価の高騰やオフィスビルの増加によって都心から居住者がいなくなった結果、夜間の人口が極端に少なくなる現象が起きました。これにより、都心に残された小学校などの教育施設では、通学する子供がいなくなることで統廃合を余儀なくされるといった、地域コミュニティの維持が困難になる問題が発生しました。また、郊外からの遠距離通勤による鉄道の混雑も大きな社会問題となりました。	地価の高騰やオフィスビルの増加によって都心から居住者がいなくなった結果、夜間の人口が極端に少なくなる現象が起きました。これにより、都心に残された小学校などの教育施設では、通学する子供がいなくなることで統廃合を余儀なくされるといった、地域コミュニティの維持が困難になる問題が発生しました。また、郊外からの遠距離通勤による鉄道の混雑も大きな社会問題となりました。
問4	答え 1 石見銀山	島根県に位置するこの銀山は、16世紀に「灰吹法」と呼ばれる精錬技術が導入されたことで生産量が飛躍的に増加しました。当時、世界の銀の約3分の1を日本が産出していた時期もあり、その大部分をここが占めていたことから、世界経済にも多大な影響を及ぼしました。
問5	答え 1 輸送コストは高いが、小型で軽量な高付加価値製品の運送に適している。	半導体（集積回路など）は「産業の米」とも呼ばれ、小型で軽量ですが1つあたりの価格が高い（高付加価値）製品です。そのため、運賃が高くても短時間で遠隔地へ運べる航空輸送が選択されます。一方で、選択肢にあるような重量があり体積の大きい製品（自動車など）は、一度に大量に安く運べる船舶輸送が主に利用されます。
問6	答え 1 貿易摩擦	特定の国への輸出が急激に増えることで、相手国の国内産業が衰退したり失業者が増えたりすることが原因で起こる経済問題です。1980年代の日米間では特に深刻な社会問題となり、日本側は輸出の自主規制や現地生産への転換といった対応を迫られました。
問7	答え 1 阪神工業地帯	大阪の「阪」と神戸（兵庫県）の「神」を合わせた名称です。戦前は繊維工業を中心に日本最大の生産額を誇っていましたが、現在は中京工業地帯などに次ぐ規模となっています。大阪湾沿岸の埋め立て地には大規模な工場が並び、内陸部には加工・組立を行う工場が密集しています。
問8	答え 1 再生可能エネルギー	1973年の第1次石油危機（オイルショック）により、石油の価格高騰や供給不足が深刻化したため、石油に代わる新しいエネルギー源の確保が急務となりました。太陽光や風力、バイオマスなどは資源が枯渇せず、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出も少ないため、持続可能な社会を築くための重要な資源として位置づけられています。